

3年あまりの間、ドレスコード化していたマスクの着用が先月に自由化され、長かったコロナ禍も着々と収束に向かいつつあります。

疫病による社会変化を発掘調査で垣間見る場合があります。その一例として、平城京の長屋王の邸宅から出土する土器は、須恵器の比率が高く、全体に大型品が多い特徴があり、平城京官衛の溝出土品は土師器の椀、皿が多くを占め、小型品が多い。前者は長屋王存命の天平年間（西暦729年以前）、後者はそれより新しい天平宝字年間の西暦757年以降で、その間に何があったのか、天平の疫病（735～737年）、天然痘のパンデミックが発生します。長屋王邸の大型食器は夜ごとの饗宴に供され、官衛の食器は、天然痘収束後に感染予防のため、個食用の小型品となり、使い捨ての土師器に置き換わったと理解することができます。コロナ感染症禍収束後の日本の社会生活がどのように変わったのかをモニタリングしていく必要があります。

それでは、2月以降の発掘調査のあらましと令和4年度実施の発掘調査の取りまとめ、センター事業などについて報告いたします。

発掘調査だより

伊勢遺跡135次調査の成果

135次を数える今回の調査地は、伊勢町字樋ノ口に所在しています。伊勢町旧集落北東辺の皇大神社と日本バイリン株式会社守山工場の間に広がる水田地約3,700㎡の宅地開発に伴う調査で、宅地内道路と周囲の擁壁工事箇所を対象に1月より実施してきました。

これまでのところ、竪穴住居（SⅠ-1～7）、方形周溝墓（SZ-1）、溝、土坑などを検出しています。

まず、竪穴住居は部分的な検出も含めて7棟検出しました。いずれも弥生時代後期の方形住居ですが、そのうちSⅠ-1～3、5は出土土器から後期後半に比定できます。



▲ 調査位置地図



上：SD-4土器出土写真
右：検出遺構写真



SⅠ-1は一辺約5.5mで、床面より4支柱穴を検出しました。出土した器台から後期後半の時期がうかがえます。

SⅠ-5、7の下から検出されたSⅠ-3は一辺6mを測り、床面土坑から後期後半の受口状口縁鉢が出土していることからSⅠ-5、7も後期後半以降の時期が考えられます。

SⅠ-2、4、6は部分的な検出にとどまっていた詳細は不明ですが、SⅠ-1～3、5とは大きな時期差がないものと考えられます。

方形周溝墓SZ-1は、調査地南辺で中世の溝の削平を受けた状態で検出しました。南コーナー辺以外が調査地外に広がりますが、推定規模は一辺約14m、築造時期は古墳時代初頭と考えられます。

検出した溝のうちSD-4は、竪穴住居域の東方を南北方向に伸びる幅約1mの溝です。SD-4からは受口状口縁甕や壺、高坏などが出土していて、大型建物群に併存する時期の溝と考えられます。

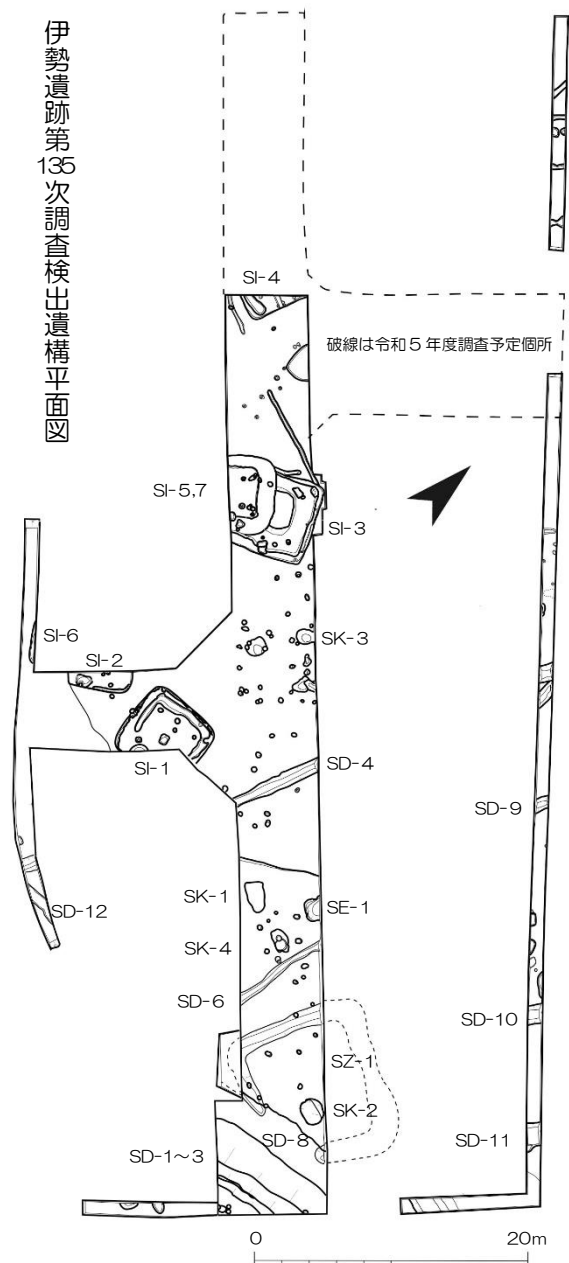
今回の調査地は、大型建物群で形成される伊勢遺跡中枢部とその外周で検出される大型建物群の周囲を弧状に伸びる溝の直ぐ北西外縁に位置しています。

今回の調査地西側のJR線路沿いで実施した調査では、弥生時代後期の竪穴住居と古墳時代初頭の方形周溝墓が見つっていますが、同時期の竪穴住居が当地でも検出されており、ひとつの集落を形成していたことが考えられます。

調査地中位のSD-4以东からは方形周溝墓SZ-1を検出しました。これまで有り様がわからなかった地域です。今回の調査地では1基の検出にとどまっていますが、この1基を含む古墳時代初頭の周溝墓群が東南側に広がっていくことも推測できます。大型建物群で構成される中枢地の周縁部についての知見を新たに得たことになります。

本調査は令和5年度も継続しますので、より詳細な実態が把握できるものと思います。（堀田）

伊勢遺跡第135次調査検出遺構平面図



伊勢遺跡の概要



金森東遺跡第64次・中島遺跡第4次調査の成果

金森町で予定されている大規模商業施設の建設に先立ち、守山警察署を囲む水田地約5,500㎡を対象に令和4年6月から発掘調査を実施しました。これまでの調査の概要を報告します。

今回の調査地は、中島遺跡と金森東遺跡に挟まれた場所で、従来遺跡として認知されている場所ではありませんでしたが、遺跡の広がりの有無を確認するための試掘を行ったところ、遺構が確認されたため、調査地北西側を既存の中島遺跡に、南東側を金森東遺跡に編入し、金森東遺跡第64次・中島遺跡第4次調査として実施しました。

まず、建造物などが計画されている場所を対象に1区～4区の調査区を設定し調査を行いました。

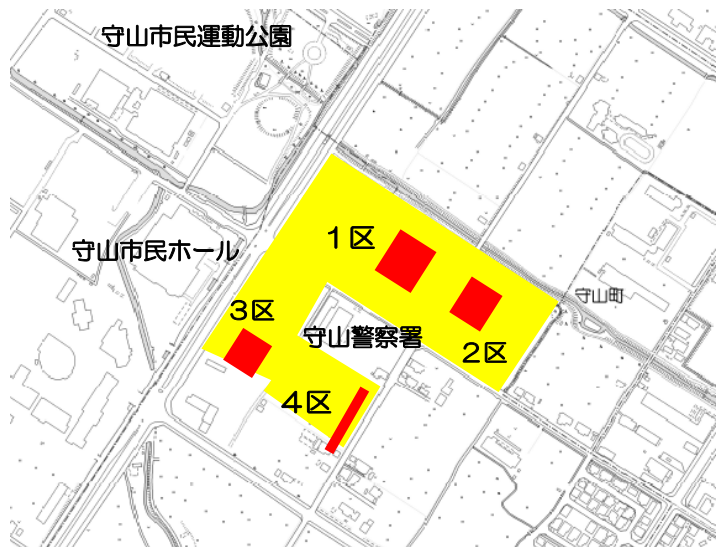
その結果、遺構検出面は水田面から約40cm程の深さで、そのため遺構は著しい削平を受けていました。特に、北側に従ってその度合いが強くなりました。それでは、特筆すべき成果をお伝えします。

まず、今回の調査では3基の方形周溝墓（SZ-1～3）を検出しました。

1区で、約20m×21mの規模を測るSZ-1と16m×16mのSZ-2の2基を、2区では16m×15.5mの規模で、周溝の4隅が途切れるSZ-3を検出しました。

方形周溝墓出土遺物は現在整理中の為、詳細な報告は後日になりますが、おおよそ弥生時代中期後半に時期比定でき、この時期には調査地およびその周辺は墓域であったようです。

また、3基の方形周溝墓以外にも、1区や3区では周溝と考えられる溝を確認していますが、方形周溝墓3～6基程度が溝を共有しながら小群を形成する市内通有のあり方はうかがうことができません。今回の調査で金森東遺跡の墓域は更に広がる結果となり、造墓した集落の所在にも関心が向けられます。



▲ 調査位置地図



写真1 1区調査風景写真



写真2 方形周溝墓検出写真 左：SZ-1，中央：SZ-2，右：SZ-3

道路拡張部分に設定した4区の調査では、竪穴住居（写真3）を検出しました。約6m×5mの方形住居で、床面からは4主柱穴、中央土坑、四周する周壁溝を検出しました。柱穴は直径30cm、柱穴距離は長辺3m、短辺2.5mを測ります。また、中央土坑からは炭が確認され、炉と考えることができます。

住居の床面南西隅で土器が一括出土（写真4）しました。器種は、高坏3点と器台、長頸壺の他に、近江系の甕・鉢などが見られます。これらの土器は弥生時代後期中葉の時期が考えられます。

また、竪穴住居の南角は、別の遺構が重層しています。その遺構からは、庄内式並行期の土器が確認されました。竪穴住居は、その時期までには完全埋没していたと考えられます。

最後に、遺跡の性格を周辺の調査成果と照らし合わせながら考えます。本調査地の約300m南東に位置する金森東遺跡第1次調査地（現山柿団地）でも、弥生時代中期後半～後期の方形周溝墓群、弥生時代後期の竪穴住居が確認されています。

これらの遺構の時期は、今回調査した遺構と概ね同じ時期であり、当地一帯は、弥生時代中期後半には墓域として、後期には集落が形成された土地利用をうかがうことができます。今後、開発の進展により、周辺の状況が更に分かっていくと思います（佐々木）



写真3 竪穴住居検出写真



写真4 竪穴住居出土土器写真

令和4年度調査のまとめ

令和4年度は別表のとおり、22遺跡で47件の調査を実施しました。調査原因はそのほとんどが個人住宅や共同住宅建築に先立つ調査で、本市の住環境の良さを反映しているのかもしれませんが。

かつて、昭和の時代には、1件が数万㎡をこえる大規模な開発に伴う調査が年間何件も実施されていて、次々とそれまで知られていなかった遺跡の性格が明らかになった歴史があります。

昨今の調査の大多数は住宅建築に伴うため、調査面積は数十㎡程度で、遺跡の広がりや数万㎡であることを考えると、個々の調査成果はまさにジグソーパズルのワンピースに喩えることができます。



伊勢遺跡で検出された方形周溝墓

しかし、そのような調査成果によって、二町鏡遺跡では近世集落の広がりを、二ノ畦・横枕遺跡や金森東遺跡でも、それぞれ弥生時代中期、古墳時代の集落跡を検証し、より詳しくすることができました。その一方で、実態の解明が進んでいるはずの伊勢遺跡にあっても、今回、大型建物群が建つ中心区画北側で、新たに古墳時代初頭の方形周溝墓を検出しました。今回は1基の検出にとどまりましたが、おそらく何基かの小群を形成するものと想定されます。また、中島遺跡と金森東遺跡間の空閑地と考えられていた地域でも、弥生時代中期の墓域、後期の竪穴住居が見つかりました。

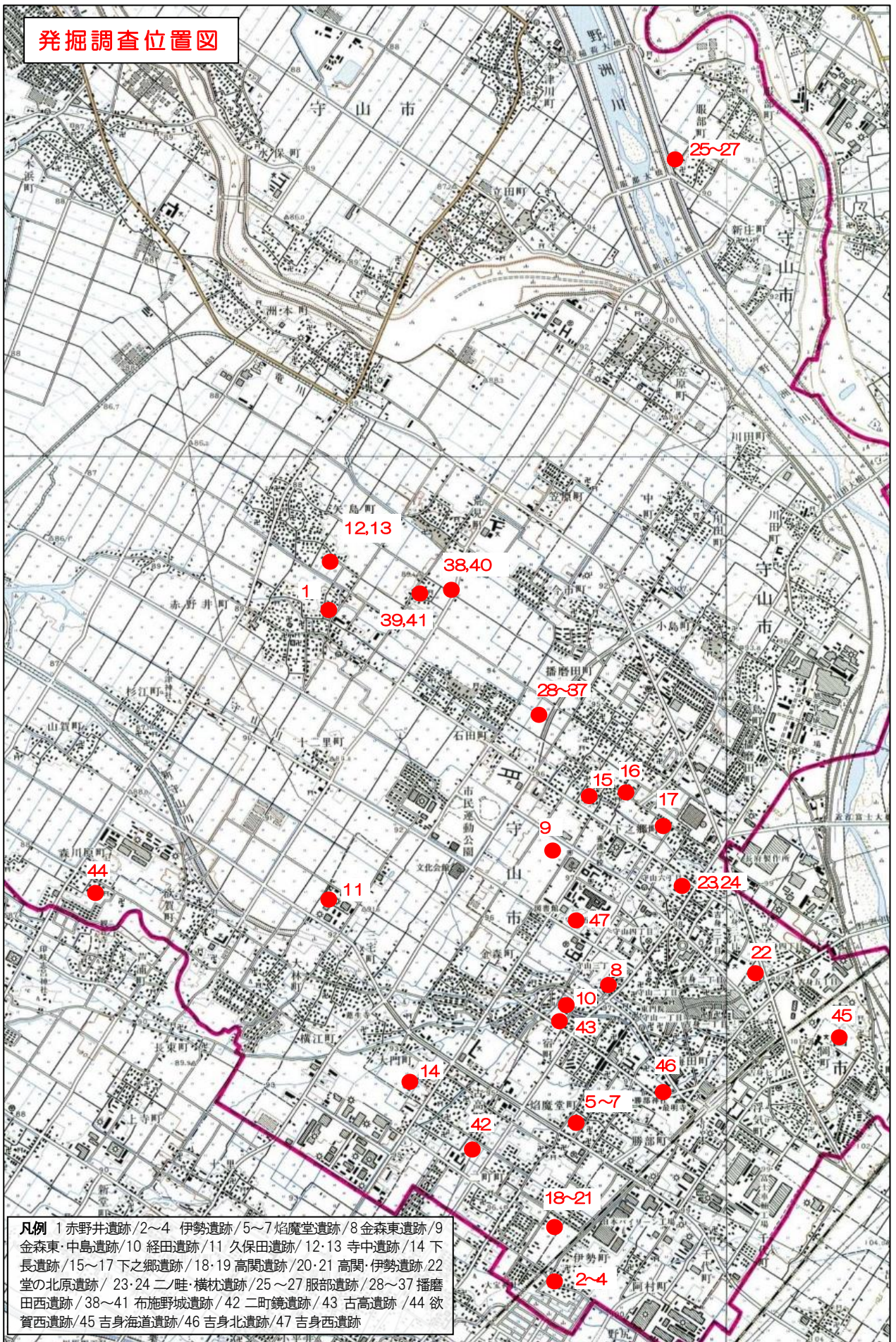
このように、今日実施する調査は、遺跡の検証、追認作業の他、時として新たな知見をもたらしてくれます。

令和4年度 発掘調査一覧表

遺跡毎、着手順、開発面積は概数・㎡

番号	遺 跡 名 (調査次数)		調 査 所 在 地	調査面積/開発面積	調 査 期 間	調査種別	担 当	乙貞掲載
1	赤野井遺跡	19	赤野井町字落神	13/215	R4.8.19	個人住宅	大 東	
2	伊勢遺跡	133	伊勢町字二丁田	300/877	R4.5.10~6.10	共同住宅	大 東	
3	伊勢遺跡	134	伊勢町字中東浦	15/15	R4.7.25	確認調査	伴 野	
4	伊勢遺跡	135	伊勢町字樋ノ口地先	1021/3726	R5.1.17~3.24	宅地造成	堀 田	
5	焰魔堂遺跡	36	焰魔堂町字角ヤ	20/140	R4.7.21	個人住宅	大 東	
6	焰魔堂遺跡	37	焰魔堂町字角ヤ	15/157	R4.7.22	個人住宅	大 東	
7	焰魔堂遺跡	38	焰魔堂町字角ヤ	200/1400	R4.7.28~8.31	宅地造成	堀 田	243
8	金森東遺跡	63	守山三丁目字大將軍	200/565	R4.5.9~5.31	共同住宅	畑 本	242
9	金森東遺跡64次・中島遺跡4次		金森町字大苗	5,500/49,608	R4.6.20	店舗建設	佐々木	
10	経田遺跡	17	今宿四丁目字高田	15/152	R4.11.10~11	個人住宅	大 東	
11	久保田遺跡	1	大林町字久保田	1,500/1,950	R4.11.1~R5.1.7	工場建設	畑 本	245
12	寺中遺跡	27	矢島町字屋敷田	20/446	R4.4.21	個人住宅	大 東	
13	寺中遺跡	28	矢島町字早稲前	150/320	R4.7.1~7.27	児童クラブ建設	畑 本	242
14	下長遺跡	36	古高町字押事	15/150	R4.7.7	個人住宅	大 東	
15	下之郷遺跡	130	下之郷二丁目字白雨	20/167	R4.6.8~9	個人住宅	川 畑	
16	下之郷遺跡	131	下之郷二丁目字幸徳庵	60/419	R4.12.5	確認調査	川 畑	
17	下之郷遺跡	132	下之郷一丁目字シノ	40/171	R5.1.11	個人住宅	川 畑	
18	高関遺跡	11	伊勢町字辻・字鍵田	20/191	R4.11.18.	個人住宅	大 東	
19	高関遺跡	12	伊勢町字辻・字鍵田	16/199	R4.11.18.	個人住宅	大 東	
20	高関遺跡13次・伊勢遺跡136次		伊勢町字辻・字鍵田	13/155	R5.3.9	個人住宅	大 東	
21	高関遺跡14次・伊勢遺跡137次		伊勢町字鍵田	15/153	R5.3.10	個人住宅	大 東	
22	堂の北原遺跡	6	吉身4丁目字門口	140/670	R4.6.6~6.30	集合住宅	堀 田	242
23	二ノ畦・横枕遺跡	63	守山六丁目字上又ヶ田	10/190	R4.6.8	個人住宅	佐々木	
24	二ノ畦・横枕遺跡	64	守山六丁目字又ヶ田	13/193	R4.10.20	個人住宅	大 東	
25	服部遺跡	7	服部町字南出・字大門	20/240	R4.4.13	個人住宅	川 畑	
26	服部遺跡	8	服部町字上大門	10/241	R4.4.27	個人住宅	佐々木	
27	服部遺跡	9	服部町字南出・字大門	67/241	R4.10.18	個人住宅	大 東	
28	播磨田西遺跡	41	石田町字一ノ坪	15/241	R4.4.27	個人住宅	大 東	
29	播磨田西遺跡	42	石田町字七ノ坪	20/243	R4.6.30	個人住宅	大 東	
30	播磨田西遺跡	43	石田町字七ノ坪	26/243	R4.7.1	個人住宅	大 東	
31	播磨田西遺跡	44	石田町字七ノ坪	23/240	R4.8.5	個人住宅	大 東	
32	播磨田西遺跡	45	石田町字七ノ坪	25/240	R4.8.5	個人住宅	大 東	
33	播磨田西遺跡	46	石田町字七ノ坪	20/240	R4.8.8	個人住宅	大 東	
34	播磨田西遺跡	47	石田町字七ノ坪	22/240	R4.9.21	個人住宅	大 東	
35	播磨田西遺跡	48	石田町字七ノ坪	15/241	R4.9.22	個人住宅	大 東	
36	播磨田西遺跡	49	石田町字七ノ坪	15/241	R4.12.2	個人住宅	佐々木	
37	播磨田西遺跡	50	石田町字七ノ坪	18/243	R5.3.16	個人住宅	大 東	
38	布施野城遺跡	6	播磨田町字三反田	12/240	R4.7.27	個人住宅	川 畑	
39	布施野城遺跡	7	播磨田町字南平	14/426	R4.9.12	個人住宅	大 東	
40	布施野城遺跡	8	播磨田町字三反田	16/242	R5.2.28~3.1	個人住宅	大 東	
41	布施野城遺跡	9	播磨田町字南平	12/334	R5.3.3	個人住宅	大 東	
42	二町鏡遺跡	23	古高町字新屋敷	320/2,103	R4.8.29~9.27	宅地造成	畑 本	244
43	古高遺跡	28	今宿四丁目字下五丁畷	25/196	R4.10.4	個人住宅	大 東	
44	欲賀西遺跡	34	森川原町字村之内	36/150	R4.10.13	個人住宅	大 東	
45	吉身海道遺跡	7	立入町(立入土地区画整理内)	25/110	R4.9.27	個人住宅	大 東	
46	吉身北遺跡	42	勝部一丁目字坂ノ垣戸	80/900	R4.9.29~10.21	共同住宅	堀 田	244
47	吉身西遺跡	133	守山五丁目字下岩賀	10/195	R4.9.12	個人住宅	佐々木	

発掘調査位置図



伊勢遺跡第135次調査の地元説明会を開催しました！

去る3月17日（金）、伊勢の皆様を対象にした地元説明会を開催しました。1月より開始した本年度分調査の成果について、埋め戻しを前に地元の皆様にご覧いただくよう急遽、開催したものです。

当日は約20名の参加があり、弥生時代後期の竪穴住居や掘立柱建物などの遺構をご覧いただきながらその概要を説明しました。参加いただきました皆様、ありがとうございました。なお、調査は令和5年度に継続します。



埋蔵文化財センター友の会 第4回見学研修を開催しました！

令和5年3月10日（金）に本年度4回目となる見学会を催行しました。今回は、平城京から遷った長岡京が置かれた向日市と長岡京市が見学先となりました。午前中は、向日市文化資料館と史跡元稲荷山古墳、昼食をはさんで、長岡京市埋蔵文化財センターと史跡恵解山古墳、そして勝龍寺城公園を巡りました。

古墳では当地を掌握していた首長の権勢をしのぶことができました。また、歴史に名高い桓武天皇や明智光秀、



向日市文化資料館（左）・史跡恵解山古墳（右）見学風景



勝龍寺城公園（左）・長岡京市埋蔵文化財センター（右）見学風景



昼食風景（長岡京市光明寺門前）

細川ガラシャなどにゆかりのある史跡からは、古代から近世にかけての重層な歴史を学ぶことができた他、歩く汗ばむくらいの好天に恵まれたことで、早春の一日を満喫することもできました。

今回、向日市資料館の職員、観光ボランティアの皆様と長岡京市埋蔵文化財センターの職員の皆さんには大変お世話になりました。記して感謝いたします。

春季講演会開催のお知らせ

5月20日（土） 「弥生文化の十字路，琵琶湖地域」

石黒立人氏（元愛知県埋蔵文化財センター副所長）講演

受講無料・定員60名！

服部遺跡や国史跡の下之郷遺跡、伊勢遺跡など、野洲川流域の弥生遺跡群は弥生社会の成り立ちと発展を語ることでできる遺跡として評価されています。

今回の春季講演会は、石黒立人氏を講師に、弥生時代の近江、守山を東海地方から俯瞰していただき、琵琶湖地域は弥生社会の中で、一体どのような地位を占めていたのかを講演いただきます。

ぜひ受講してください。皆様方の参加をお待ちしています！



▲昨年度講演会風景

開催の詳細 日時/令和5年5月20日（土）午後2時開講
場所/埋蔵文化財センター2階会議室 受講方法/事前の申し込み
が必要。受講無料・定員60名・受講受付中

◆春季講演会・歴史入門講座申込み先 ☎TEL&FAX **077(585)4397**

守山市立埋蔵文化財センター（諸事情により開催内容を変更する場合があります。）

令和5年度歴史入門講座 6月より開催します！

本年度の歴史入門講座は下記の日程で開催準備を進めています。

埋蔵文化財センターFaceBookや広報もりやま6月1日号等に詳しい内容を掲載します。

受講申し込みは、6月1日（木）から開始します。ぜひ受講してください！

日程/11月を除く6月から12月第3土曜日（諸事情により日程等を変更する場合があります。）

第1講 6月17日(土)/ 第2講 7月15日(土)/ 第3講 8月19日(土)/ 第4講 9月16日(土)/ 第5講 10月21日(土)/ 第6講 12月16日(土) のいずれも午前10時から12時

◆開催場所 埋蔵文化財センター2階会議室 ◆受講料 1,200円（全6講、1講毎200円）

これまでの乙貞や新着情報は、『歴史のまち守山』やFace Book からもご覧いただけます！



←歴史のまち守山はコチラから

<http://moriyama-bunkazai.org>

守山市立埋蔵文化財センターFacebook ページはコチラから▶

<https://www.facebook.com/MaibunMoriyama/?ref=bookmarks>



【後記】「山川異域 風月同天」、この詩句をご記憶の方も多いかと思います。コロナ禍の真っ只中の2019年、日本から武漢に送られた支援物資に添えられたメッセージです。

もともとは、8世紀初めに唐に贈った袈裟千枚に刺繍されていた「山川異域 風月同天 寄諸仏子 共結来縁」の起、承上二句です。この漢詩には仏教の教えにより国を治めようとした桓武天皇の勅を受けた長屋王の高僧招来の願いが込められています。その思いが鑑真を動かし、7度の航海の末に来日を果たし唐招提寺を開基しました。

その1300年後、混乱する中国に向けて、「住むところは異なっている、風や月を感じ見るように同じ空の下でつながっています。ともに頑張りましょう」というエールに引用されました。その思いは十二分に伝わり、その後の日本がコロナ禍に陥った際に中国から日本へ送られてきた物資に「鴻雁北 一衣帯水の絆かな」と漢詩の春暖雁北を俳句仕立てにした返礼がありました。漢字文化を共有する間柄がなせる業でしょう。

この度、当センターで長年、発掘調査に携わっていたH君はキャリアアップし、この4月から新たな勤務先で発掘調査を生業とします。「職場は違えども、相変わらず発掘調査という仕事で結ばれている。がんばれ！」の思いを込めて、わたしもこの「山川異域 風月同天」を贈ります。（馬耳東風）

